※過去に掲載された記事になります。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

スタッフ一覧へ ／ イントロダクション パナソニックのロボットにご対面！ へ

このコンテンツ、あなたの評価は？ ○ おもしろい ◉ ふつう ○ おもしろくない 送信

© Panasonic Corporation

くらしを支える道具の未来 ～パナソニックのロボット技術～

Introduction ・1：ロボティックベッド ・2：高齢実務支援ロボット ・3：開発者の夢

2009年9月29日公開

パナソニックのロボットにご対面！

ライター：
テイ・ヒロ日高
（ヒロ・ハーフ&Co.）

こんにちは、ワタクシ、デイビー日高といいます。この名前はもちろんペンネームでして、フリーの取材記者やライターとして活動している日本人です。テクノロジーどころかサイエンスが ﾁﾝﾌﾟﾝｶﾝﾌﾟんで、最近では、主にウェブのRobot Watchとか、雑誌のロボコンマガジンなどでロボット系を中心にしたハイテクやサイエンスなどの記事を書かせてもらっています。

パナソニック製ロボットを取材!?
それはism編集部からの電話で始まった

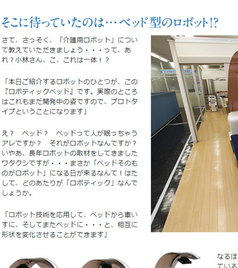
さて、そんなサイエンス&テクノロジーライター大好きのワタクシに、舞ったりかなったりの出来事が。ism編集部さんから連絡をいただき、「弊社のロボット開発部門を取材してほしい」と！　久ぶ。パナソニックがロボットを作っていたんですか！？　いや、仕事の話をいただけたのも嬉しいですが、それよりもパナソニックがロボットを作っているということの方が衝撃的です！一体、どんな姿をしているのか？

ヒントをうかがったところ、「介護用」とのお返事が。なるほど、そうきましたか。確かに介護の現場では、人手とカが必要です。ロボットが力パワーを発揮して活躍してくれたら、大助かりなことはたくさんあるはず。例えば、「抱き上げロボット」とか。どれだけ体重の軽い人だろうと、人をひとり持ち上げるのは、成人男性だって結構手力ラが必要ですからねぇ。いやひょっとしたら、担抱になりがちな高齢者を軽めてくれる動物型の癒し系ロボットというのもアリですね。ちなみにパナソニックの子会社であるアクティブリンク株式会社さんでは、リハビリ支援用の「アシストスーツ」なるものを開発しているという・・・。（これはism編集部さんに教えてもらいました）

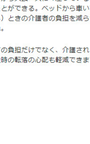
そう、一言で「ロボット」と言っても、いろいろな「人型」だけじゃなくて、見た目もさまざま、出来ることもさまざま、いろんなタイプの「ロボット」が存在し得るのです。ですので、さすがの（？）ワタクシも、今回の「パナソニックが作っている介護用ロボット」の正体はまったく予想できません。　大阪に行けば、詳細なお話だけでなく、開発現場でその実物を見せてくださるとのこと・・・これはもう、話っている間はないでしょう！早速出発～！

最先端の開発現場、
ロボット事業推進センターを訪問!

というわけでやって来ました大阪府門真市。新幹線を降りて、迷中の乗換駅を関違えて迷子になりかかったり、「カドマシ」を「モシマシ」と読んだりしたことは内緒にしておいて・・・。



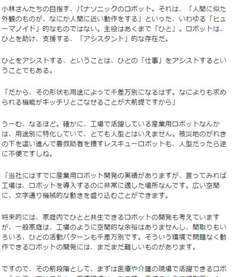
ここが、パナショックのロボット開発の総本山、ロボット事業推進センター。入館許可証をつけて施設内で待っていると、ロボット企画担当リーダーの小林さんが登場！　こんにちは！よろしくお願いします！！



小林 嘉市　（こばやし よしいち）
パナソニック株式会社　生産革新本部　ロボット事業推進センター　ロボット企画担当　リーダ

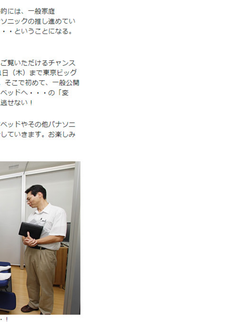
案内されたのは、こちら。「Robot Open Labo」です。

ドアに「オープン」とはありますが、一般人が入れるわけではないです。マスコミだって、そうそう入れません。ここまで来た取材陣はあまりいないとのことで、非常に貴重な体験なのです。ちょっと緊張。



そこに待っていたのは…ベッド型のロボット!?

さて、さっそく、「介護用ロボット」について教えていただきましょう・・・っで、あれ？小林さん、こ、これは一体！？



「本日ご紹介するロボットのひとつが、この「ロボティックベッド」です。実際のところはこれもまだ開発中の姿ですので、プロトタイプということになります」

えっ？　ベッドって人が眠っちゃうアレですか？　それがロボットなんですか？いやぁ、長年ロボットの取材をしてきましたワクワクですが・・・まさか「ベッドそのものがロボット」になる日が来るなんて！はたして、どのあたりが「ロボティック」なんでしょうか。

「ロボット技術を応用して、ベッドから重いすに、そしてまたベッドに・・・と、相互に形状を変化させることができます」

なるほど～。このロボティックベッドなら、「寝ている状態」から スムーズに「座っている状態」へ移行することができる。ベッドから重いすに移る（移乗する）ときの介護者の負担を減らせるってことですね。

「介護する方の負担だけでなく、介護される方にとっては移乗時の転落の心配も軽減できます」

そうですよね。ベッドに居るだけで、すでにそこは、車いすでもあるんですから・・・。

「介護を必要とされる方々が「自らの意思でベッドから起き上がる」『車いすで移動し、家族の団らんに集う』などの自立した生活ができるよう支援するものでもあります」

ひとが主役で、ロボットは「アシスト役」

小林さんたちの目指す、パナソニックのロボット。それは、「人間に似た外観のもの が、なにか人間に近い動作をする」というった、いわゆる「ヒューマノイド」的なものではない、主体はあくまで「ひと」。ロボットは、ひとを助け、支援する、「アシスタント」的なイメだ。

ひとをアシストする、ということは、ひとの「仕事」をアシストするということでもある。

「だから、その形状も用途によって千差万別になるはず。なによりも求められる機能がキッチリとこなせることが大前提ですから」

うーむ、なるほど。確かに、工場で活躍している産業用ロボットなんかは、用途別に特化していて、とても人型とはい えません。被災地のがれきの下を進い進んで善救助者を捜すレスキューロボットも、人型だったら逆に不便ですしね。

「当社にはすでに産業用ロボット開発の実績があります が、言ってみれば工場は、ロボットを導入するのに非常に適した場所なんです。広い空間に、文字通り機械的な動きを盛り込むことができます。

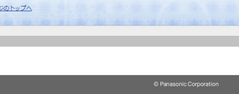
将来的には、家庭内でひとと共生できるロボットの開発も考えていますが、一般家庭は、工場のように空間的な余裕はありませんし、開発ちもいろいろ、ひとの活動パターンも千差万別です。そういう環境で問題なく動作できるロボットの開発には、まだまだ難しいものがあります。

ですので、その前段階として、まずは医療や介護の現場で活躍できるロボットを作っていこうと。医療現場は、ある種、工場のように機械的に、ルール機械的な仕事が求められる場であるけれども、入院病棟や病室を考えても ちろんそれだけおさかりのように、ひとの日常生活が行われる場所でもある、というこの側面を持ち合わせていて、ちょうど工場と一般家庭の中間に属する場所にあたるわけです」

工場と家で、次に医療や介護の現場、そして最終的には、一般家庭へ・・・、となると、ペッド型ロボットは、パナソニックの目論ん進めているロボット開発の、ほんの一部、ほんの序の口・・・ということになる。これはなかなか、夢の深い話になりそうだ！

実はこのロボティックベッド、皆さんにも実際にご覧いただけるチャンスがあるんです。2009年9月29日（火）から10月1日（木）まで東京ビッグサイトで開催される「第36回 国際福祉機器展」。そこで初めて、一般公開されるんだとか！ベッドから重いす、重いすからベッドへ・・・の「変身」の様子も、チェックできるらしい。これは見逃せない！

では今回はこのへんで。引き続き、ロボティックベッドやその他パナソニック製ロボットについて、もう少し詳しくご紹介していきます。お楽しみに！



初めての「ロボティックベッド」！おお、こ、これは・・・！

第一話
起動！ロボティックベッドに迫る

- プレスリリース：自立生活を支援するベッド型ロボット「ロボティックベッド」を開発
  http://panasonic.co.jp/corp/news/official.data/data.dir/jn090918-1/jn090918-1.html
- 第36回 国際福祉機器展（2009年9月30日～10月1日開催）の情報をブログでご紹介しています。
  http://ex-blog.panasonic.co.jp/exhibition/hcr2009/

ロボティックベッド、世界初公開！
動画もご覧いただけます！
http://ex-blog.panasonic.co.jp/exhibition/2009/09/hcr09_230.html

- 国際福祉機器展　パナソニックブースのご案内
  http://panasonic.co.jp/exhibition/hcr2009/

デイビー日高
1966年、東京都豊島区生まれ。
愛子さんで、娘さんでの「子ぞ（さん」ライター。
サイエンス&テクノロジー、自動車&モータースポーツなどが好き。
主な寄稿先は:Robot Watch、ロボコンマガジン、Car Watch、Reisonsaiなど。
デイビー日高の公式HP「スタジオ ディターンズ.com」
http://www.e-ditans.com/

© Panasonic Corporation

人と人を支える最先端技術 ～ハプティックペッド～

「快適な暮らしを支える」「安心・安全・快適」を目指す、新技術の開発と実用化の取り組みを、ご紹介します。

第一話 起動! ロボティックペッド

ものがたり TOP | 人と人を支える最先端技術 ～ハプティックペッド～ | 人と人を支える最先端技術 ～ハプティックペッド～ 第一話 起動! ロボティックペッド

2009年10月12日掲載

ものがたり TOP

快適な暮らしを支える、安心・安全・快適。ロボティックペッド、その実力を体験!

こんにちは。ロボット研究チームです。ずいぶん冷えてきましたね。ここ、いかがですか。ロボットの実力、ご体験ください。

ロボット研究チーム
ロボット研究センター
ロボット研究部

ロボットの実力とは、人間を支援する技術、安心・安全・快適を目指す技術のことです。ご覧ください。ロボットの実力、その秘密を探ってみましょう。

長年の介護用ベッド研究が結実した、「ベッドを使いやすいシステム」

ロボット研究センター
ロボット研究部
ロボット研究チーム
ロボット研究チーム
ロボット研究チーム

「ロボットパートナー」は、長年蓄積された研究の成果を、特に高齢者の介護の現場において活用することを目的として、ロボット研究センターが、ロボット研究チームを中心に、ロボット研究部、ロボット研究チーム、ロボット研究チーム、ロボット研究チームの、ロボット研究チームが、ロボット研究チームの、ロボット研究チームの、ロボット研究チームの

《人を支える道具の未来～ロボットとHRの力～》

▶ Introduction ▶ 01 ロボットハンド ▶ 02 未来を支えるロボット ▶ 03 開発者の夢

2009年1月15日公開

ライター：ナイビー広報

第二話
薬剤師を助けるロボット

医療現場で薬剤師さんを助ける「注射薬払出ロボット」とは？

まいどこのほんの井沢明のライター、ナイビーです。パナソニックのロボットに関連する新ネタが入ってきましたので、今回は、お医者さんや看護師さんの次に、患者さんに近い存在である薬剤師さんを取り上げてみたいと思います。実は、日本では、「日本ヒューマン・ファクター・ロボット・アソシエーション」（JAHR）という、ロボットテクノロジーと医療の融合を進める研究会が発足されました。ちょうどこの医療現場で、ロボットを薬剤師さんのパートナーとして活用しようという動きがあるようです。

（注射薬）と（患者さん）をロボットが（薬剤師）に届けるイメージです。ロボットとヒトが共存する世界ですね。

注射薬払出ロボットは どこで、何をするのかな？

さて、今回取りあげる注射薬払出ロボット、みなさんはどんなロボットか想像つきますでしょうか？ いろいろ、ご存知の方、患者さんのお世話をされる看護師さんなどは、ご存知の通りと、思います。ですが、今回のロボットは、患者さんが薬剤師さまからの指示通知所所で、薬剤師さんの仕事をアシストするロボットなんですね。

ですよね？ 正に薬剤師さんがどんなお仕事をしているのか、ご説明しますよ。

薬剤師さんは、お医者さんの指示を受けて薬（ご存知、大量に出る薬剤のことなんです。）を、ピッ、ピッ、と、患者さんへ、ピッ、ピッ、と、の繰り返しの作業です。一時ご使用していたこの光景、ムリ！ の連続でしたよ。ですから、ここ最近ですとバーコードを使ってのお仕事のお手伝いの事、、、

Panasonic
モノづくりスズビッシ物流マガジン イズム Tsmi
ism ものづくりスズビッシ物流マガジン イズム Tsmi
ホーム > 第三話 ロボット開発者の夢は尽きず > ものづくりスズビッシ物流マガジン イズム Tsmi
>はじめに >ものづくりの現場 >ロボットの夢 >ものづくりの未来 >